

J A R L

香川クラブ報

No. 337 平成16年10月15日



J A 5 Y D E

クラブミーティングのご案内

先般おこなわれたアテナリピックでは日本人選手が大活躍をしたことはまだ記憶に新しいと思いますが、少々寝不足になられたのではないのでしょうか。次々とあがる日の丸と君が代。いろいろ国旗国歌については物議をかもしていますが、現時点で日本を象徴するものですから、晴れやかな選手とともに見ている私たちに感動を与えてくれました。

スポーツといえばプロ野球界において、史上初めてというストライクが敢行されました。今までも赤字のために球団売却など行われてきたのに根本的な解決をしようとせず、安易に一リーグ性ををぶち上げてみたり、選手やファンを小馬鹿にした発言・態度など球団経営者たちの怠慢・思い上がりが大きな原因であったように思います。一先ずは解決したようですが、何かにつけ某球団の元オーナーに振り回されている球界は何も変わったとは思えません。野球人気は衰退している本当の理由を球団の経営者たちは知るべきでしょう。

一方アメリカ大リーグにおいては、マナズンのイチロ選手が年間最多安打新記録 262 本というとてつもない大記録を打ち立てました。チームはダントツの最下位ながらファンに夢を与え続けるという本当のプロフェッショナルですね。天才の一言だけでは片付けられないようなしびれるような選手です。新球団が誕生するかもしれないし、四国や東北で新たに独立リーグが生れるかも知れないという。しばらく野球界から目が離せない状態です。

ところで、香川県は災害が少ない県という甘い認識の中、今年は台風の当たり年で今までにない大型台風 15・16・18・21 号が立て続けに香川県を襲い、おまけに黒潮の蛇行など海流の異常や高潮のために、沿岸や島しょ部における浸水被害。大雨による西讃地区での土石流災害など香川県における気象観測史上初めてという未曾有の大災害が発生しました。人的被害もあり官民共に油断があったのでしょうか。8J5AAA や 8J5III、クラブの移動運用などで活躍している三谷町のアンテナタワーのポールもくの字に曲がり衰れな姿になりました。クラブ員の中にもこれらの台風のため被災された方がおられると思いますが、慎んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。

まだまだ、これから地球温暖化現象に加え、東海・南海沖大地震の危険性も危惧されております。“備えあれば憂い無し”天災は防ぎようがありませんが、被災の程度を最小限に抑えるとか、被災時における家族をも含めた身の安全、被災後の早急な立ち直りなど、常日頃十分に災害の危険性を認識し、家族とともに検討しておく必要があるのではないかと。天災は忘れた頃にやってくる”・・・。

今年のクラブ行事も残すところ、香川マラソンコンテストの参加と忘年会のみになりました。そこで、クラブミーティングを下記のとおり開催いたしますので、何かとお忙しいとは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願いいたします。

記

日時：11月10日（水）

19：30から

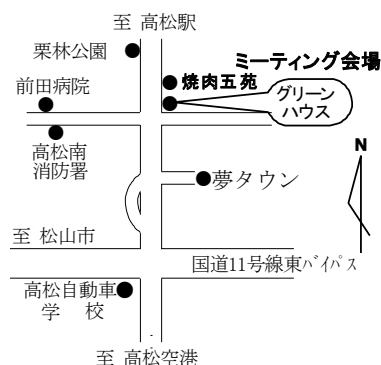
場所：グリーンハウス（東ハゼ町）

議題：1、香川マラソンコンテストについて

2、忘年会について

3、クラブのQSLカードについて

4、その他



北四国 A R D F 競技大会の報告

9月12日に木田郡牟礼町深山公園において、北四国ARDF競技大会が開催されました。地元と言うことで、クラブから選手はもちろん大会スタッフとしてもたくさんの方が参加しました。

当日は天候に恵まれたのですが、予想最高気温が31度でおまけに湿度が高く、大会前から日射病や熱射病が心配される一日になりました。会場は五剣山の麓、八栗寺ロープウェーの東側でテニスコートなどがあり、正面には屋島登山自動車道や壇ノ浦が見えるFBな環境です。

受付開始時間前には早々と選手たちが集まり、遠くは鹿児島・山口や三重の方からも参加があり、ちょうどARDF世界大会と重なったわりにはたくさんの方が参加していました。



地形を見ながらいつものように競技コースの推測や体調の良し悪しなど、それぞれミーティングです。特に先般の台風被害の話題になると、こちら香川でも高潮被害がありましたが、九州や山口方面は風水害による被害が甚大であったそうです。それでもARDFに参加する各局のバイタリティーには恐れ入りました。

さて、競技のほうですが五剣山の裾野だけあり高低差もあり、見かけ以上の距離もありそうだし、JF5MED山田OMがコースの設定をしていると聞いて、今日も攻略の仕方を間違えると厳しい大会になるのではないかと予感がしました。

大会結果は下記のとおりでした。

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索数	備考
Y L	第1位	J G 5 T J J	1時間 21 分 56 秒	3 個	
	第3位	J F 5 I C B	1時間 34 分 52 秒	3 個	
O T	第1位	J F 5 I C A	1時間 39 分 28 秒	3 個	
	第4位	J H 5 L Y W	1時間 50 分 40 秒	3(4)個	
	第7位	J I 5 X T P	1時間 42 分 43 秒	2 個	
V T	第5位	J A 5 T O P	1時間 23 分 21 秒	1 個	

〈大会スタッフ〉 J A 5 T F J ・ J H 5 E Z B ・ J H 5 W M N ・ J E 5 P B O
J F 5 M E D ・ J G 5 O B X ・ J G 5 R S T

大会を終えて顧みますと、第1・2・5TXが比較的簡単な位置に配置されていましたが、第3TXは一度八栗寺の方に登ってから下



に向かって探索するか、スタート地点である深山公園の方に戻ってから上に向かって探索するか、どちらにしてもかなり厳しい斜面を移動しなければならず、TXはというと山の中腹部の藪の中に巧妙に隠され、近くに行けば目でも発見できるというような設置のしかたでなく、あくまでも電波が発信しているときでなければ見つけれられないように配置されていました。第4TXは先の4個のTXとは地図上での直

線距離はそう離れていないものの実際の移動距離はかなり離れたところで、これも山の中腹部に第3 T X同様巧妙に隠されており、探索場所によっては反射波の方が直接波より強力で近くに接近するまでなかなか設置場所を特定し難いような配置でした。

参加者で全 T X 探索者は一人もおらず、ベテランほど第3・4 T X の探索に苦勞し、コース設定者の罠にはまったようで成績が振るわず、途中であきらめて早く帰った選手が結果的に良い成績を収めたようです。



今回のようなコースを設定されたら、常に上位の成績を収める人が必ずしも良い成績とは限らず、ARDF の経験が浅い人やあまり体力に自信の無いと言う人でも入賞できるという見本みたいな大会で、ARDF の面白さ、意外性が十分發揮された大会であったかと思いました。(個人的にはコース設定者に大拍手)

面白いといえば、競技中にわざわざ八栗寺に参拝して？それが通じたのか並み居る強敵？を退けて一位に輝き、競技終了後早速お礼参り

に再度参拝しに行った OM がいました。h i

また、今回は“子連れ狼”ならぬ子連れの参加者があり、会場を大いにわかせました。

J F 5 M E D ・ J G 5 T J J 山田ご夫妻の一子「彰良」君です。まだ2歳足らずということですが、将来のアマチュア無線、特に ARDF を支える人になるのでしょうか。今から成長が楽しみです。

我々が若い頃は子連れが当たり前のようでしたが、最近は少子化の影響、グループの高齡



化によってこのような微笑ましい光景があまり見られなくなったのは何か寂しく感じられます。

競技終了後は例によって反省と競技中における個人的なエピソードなどで盛り上がり、県外の参加者等と交流を深め有意義な一日を過ごすことが出来ました。

ARDF 大会に参加してきました

<th16 広島県 ARDF 大会>

平成 16 年 10 月 3 日 安芸高田市吉田運動公園

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数	備 考
OM	2 位	J F 5 M E D	1 時間 41 分 42 秒	5 個	大会会場付近ではすでに紅葉が始まっており、肌寒い一日でした
O T	5 位	J G 5 O B X	1 時間 23 分 07 秒	4 個 (5)	
	6 位	J H 5 L Y W	1 時間 31 分 36 秒	4 個	

紫雲出山探訪(平成 16 年 5 月 23 日)

J F 5 EHD

先週は天候不順のうえに台風も接近し雨が続いた日々でしたが、ようやく晴れ間がのぞき太陽の日差しが眩しく感じられます。そんな中、詫間町の紫雲出山へと出掛けました。標高は 352.4m とそれほど高くはありませんが、山頂には展望台が設置されており瀬戸内海が望め、車道も整備されており気軽に車で登れます。

午前 6 時 45 分、8 番ホームのマリンライナーは、まだ寝ぼけ目の私を呑み込んで高松駅を発車。坂出で乗り換えて JR 詫間駅に着いたのは 7 時 55 分。日曜日とあって乗客はまばらです。駅前には大浜行きの町営バスが待っており、あわただしくバスに乗り込みます。私とおばあさんだけを乗せた町営バスは 8 時に詫間駅を出発し、庄内半島へと向かって行きます。途中、詫間電波高専の前を通りますと屋上にはアンテナ群が見えます。さすが電波高専、無線技士を養成する学校ですから設備は立派です。海岸通りに出ますと、海の向こうに粟島が見えてきました。

昔、[岬めぐり]という歌が流行ったことが思い出されます。「岬一めぐりの一バスは一」(失礼しました)。

8 時 32 分終点の大浜バス停に到着です。下車したのは私ひとり。地図を見ながら紫雲出山へと向かいます。用水路の掃除をしているおばさん達に会い紫雲出山への道を聞きますと、4、5 人が同時にしゃべり出すので何を言っているのかわかりません。「えっ」と、もう一度聞き直

しますと、おばさん達は「大西さんところから上にあがるんじゃない」と言っています。「大西さんところ」と言われても私には分かりません。地図を見ながらさらに聞きますと、どうやら昔、庄内村の役場があった付近らしいようです。「そこから登って行くんですね」と、私。「そうじゃあー、そうじゃあー」と、おばさん達。教えていただいた道を行きますと、「ああ、これか」と思わせる古い建物が見え、玄関には消えかかった文字で庄内村役場と書かれた看板が見えます。この建物は本当にレトロな感じで、文化財に指定されても良いような建物です。



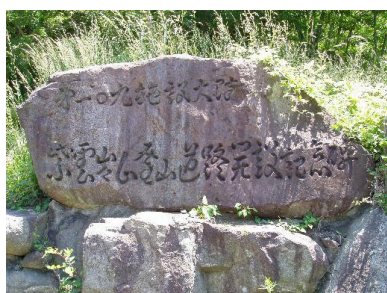
ここの角を右に折れて坂道が上へと続いており、どうやらここが四国の道のように。登り始めてすぐに紫雲出山大浜登山口の標識と四国の道案内板が併設されており、ここから紫雲出頂上へと向かっています。登山道は舗装されていますが勾配は急で、早くも息があがり汗をかきながら登って行きますとベンチが設置されており、ちょっと休憩してゼリー栄養食と水分補給です。

振り返りますと坂道の向こうに海と岬が見えます。呼吸を整えいざ出発。竹林の中へと入って行きますと、左右は伸びた竹で覆われ、まるで竹のトンネルです。道は竹の枯れ葉で埋まり、ザクザクと踏みしめて登って行きます。それを過ぎると本格的な山道となり、道幅は狭く山肌を沿うように登って行きます。先週の雨で山はたっぷりと水を吸ってお



り、雑木林の中は蒸し暑く汗が体中から吹き出てきます。途中、倒木が山道を遮っており、その倒木をくぐり抜けて慎重に登って行きます。突然、野鳥の鳴き声が聞こえて、上を見ますと木の枝に巣箱が設置されています。どうやら鳥たちのテリトリーに入ったようで、この鳴き声は警戒の声でしょうか。静かにその場を立ち去って、さらにつづら折りの山道を登りますと**紫雲出山山頂 →**の標識が見えて、右へと折れると丸太木の階段状の急な登りとなっています。「これはちょっときついなー」と思いつつ、一步、一步と登っていきます。「ハァハァー、ゼイゼイ」と肩で息をしながらそこを登り切りますと、麓から登って来る車道へと出ました。そこには都合よくベンチが設置されており、ここで一息入れます。もう汗で全身びしょりです。喉もカラカラ。水分補給とチョコレート、ゼリー栄養食、バナナを一本。もう小学生の遠足状態です。

ベンチに腰掛けて休んでいますと、一台の軽四が私の前で停りおじさんが降りてきて「ここから登ってきたんなー、草がボウボウやろー。来月になったら草刈りするでえー」と声を掛けてきました。「はい、所々藪漕ぎ状態ですー」と私。「車道ができてから



この道登る人が少のうなったわー」。「紫雲出山へはこの車道を登って行けばいいんですかー」。「そうじゃ、この道を行って突き当たりには駐車場があるけん、その奥から登って行くんじゃー」。「そうですか、ありがとうございます。それじゃ登ってきます」と親切なおじさんに別れを告げて頂上目指して出発です。

車道を登っていきますと、瀬戸内海が眼下に見えてきました。今日は曇っており遠くまでは望めません。

さらに登って行きますと**紫雲出山登山道路完成記念**

と刻まれた石標があり広い駐車場に出ました。おじさんに教えていただいた通り、その

奥に**紫雲出山 →**の標識や四国の道の案内板などがあり、それらに目を通します。それによりますと、ここから頂上を経て、庄内半島の先端の三崎までの道は「**紫雲出山ロマンの道**」[岬めぐりの道]と呼ばれているようです。また頂上の手前には弥生時代の住居の復元したものがあって、どのようなものか楽しみに登って行きます。

登山道の左右には紫陽花が秩序よく植えられており、来月には綺麗に花が咲き乱れることでしょう。さらに登って行きますと右に草葺きらしい建物が見えてきました。これが弥生時代の竪穴住居の復元した建物のようで、その横には弥生人らしい人形が三体展示されています。これは空間



展示方法の「ジオラマ」というものでしょう。その隣には、ここから出土した遺物の展示室と喫茶室があり、メニューにコーヒー400円とあります。弥生人と竪穴住居を見ながらコーヒーを飲むのも一興かも知れません。そこを過ぎると少し



盛り上がった所に大木があり、そこに三角点の標識が立てられています。この標識、三角形の黄色の看板に赤色で三角点と書かれています。一見、交通標識と間違ふような標識です。標高 352.4m。今の時刻は 10 時 03 分です。

この三角点から少し奥に立派な展望台があり、ここから福山市、因島、伊予三島などが見えると案内板にあります。しかし、今日は雲り空で全く見えません。麓の漁港近くの島々しか望むことができず「まあ、これもまた良し」と自分を納得させ、誰もいないこの立派な展望台を独り占めにして少し早い昼食にしました。コンビニのおにぎり弁当をひろげ、冷えたおにぎりをパクリ。

昼食後もまったく視界は利かず諦めて下山の準備にかかります。この頂上から庄内半島先端の三崎までの四国の道が続いていますが、今日は紫雲出山までとし、次回の楽しみにしておきます。少しは軽くなったリュックを背負って下山して行きます。駐車場まで降り、もう一度ゆっくりと庄内半島の説明板を読んでみます。半島の箱という所には浦島伝説が伝承されているそうです。箱という地名、浦島太郎の玉手箱からきているのでしょうか。次回来る時は検証してみたいと思います。



そして、車道から四国の道へと入り、竹林を過ぎて民家がポツポツと見える所まで下りてきますと道端で三人のおばあちゃんが井戸端会議をしております。

「こんにちはー」と声を掛けますと、「紫雲出に登っとんたんなー、えらかったなー」とおばあちゃんから慰労の声を頂き、私は「ありがとうございます、詫間は良いところですねー」と返礼です。「どっから来たんな」。「高松です。紫雲出山からの眺めはきれいですねー」と、あれこれと雑談

してしまいました。そして「バスの時間がありますのでこれで失礼します」と別れを告げ大浜バス停に戻ってきました。バス停では庄内半島でロケをした『機関車先生』という映画のポスターが貼ってありました。そういえば、現在ヒット中の映画『世界の中心で愛を叫ぶ』のロケ地は香川県庵治町だったようで、どうやら香川県は映画のロケ誘致に力を入れているようです。

今回の紫雲出山探訪はあまり眺望には恵まれませんでした。詫間町の人々の温かい心に触れ、目がウルウル（泣くな！）。

こうして大浜バス停から、町内どこまで乗っても 100 円という町営バスに乗車。JR 詫間駅に出て 14 時 31 分発の高松行きの電車に乗り、感動を胸に紫雲出山を後にしたのです。

土器さんには早くから原稿をもらっていたのですが、紙面の都合上たいへん遅くなって申し訳ありませんでした。

なお、これに懲りず皆さんどんどん原稿をお寄せください。お待ちしております。

★★★ 新入会員募集中 ★★★

JARL 香川クラブでは、新入会員を募集しています。

今年はクラブ結成56年になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。
クラブに新風を吹き込むためにも、新入会員の募集にご協力ください。

JARL 香川クラブでは、会員サービスのために無線局免許状の期限切れについてお知らせをしていますが、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局免許状を取得した方は、その都度お知らせくださいますようお願いいたします。

特に、家族会員の方が十分に把握できていません。

せっかく取得したコールサインを流し、また再開局するのは不経済です。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

Eメール：JH5WMN

JH5LYW

前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成16年度会費につきましても早急に納入をお願いします。

会報等印刷発送だけで会費の半分以上を使っています。会費が未納の方は納入してくれている会員の方に負担をかけています。ぜひよろしくをお願いします。

JARL 香川クラブ報

発行責任者	JA5AHM	天 野 英 弘
編 集 者	JH5LYW	三 好 伸 幸
	JH5WMN	山 口 博 司
	JE5PBO	岡 田 光